

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 脳状態を考慮した低負荷かつ効率的な情報提示デバイスの開発

2. 個人研究者名

天野 薫（情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター 主任研究員）

3. 事後評価結果

本研究では、情報提示を脳の状態に合わせるとともに脳状態を情報提示に合わせることで、脳と情報デバイスが双方向的に寄り添うウェアラブルシステムを開発し、ユーザーの負担が小さく、かつ効率的な情報提示を目指した。具体的には、脳波の強度、周波数、位相などの情報に基づき適切なタイミングで情報提示を行うとともに、脳波の周波数操作技術を用いて、その時々で求められる脳状態を作り出す技術開発を目指した。

ジター錯視とアルファ波の相関によりスマートフォン等の簡易な機器でも脳状態を計測できることを示したことは興味深い。また、視覚情報からの脳波計測という手法も画期的である。特に、全般としては、人の能力を進展させることのできる一つの方向性を示せた点を評価したい。アプリでの脳波計測も重要な成果と考える。

今後は、今回の成果を基に、実デバイス等を実際に作成/評価するところに期待したい。